

裕仁皇太子
台湾周遊ルート

大正12年4月16日～4月27日

日本>基隆>台北>新竹>台中>台南>高雄>屏東>高雄>澎湖>基隆>台北>基隆>日本

昭和天皇
裕仁皇太子

昭和天皇（諱、裕仁、1901年4月29日～1989年1月7日）は日本の第124代天皇（1926年～1989年）。1926年（大正15年）に即位、「書経」中の「百姓昭明、協和萬邦」（国民の平和及び世界各国の共存繁栄を願う意味）の一句を典拠として、「昭和」という元号が制定されたと言われている。

・東宮行啓

日本は日清戦争によって台湾の領有権を取得し、総督を派遣して台湾を統治することになりました。その間、計19名の台湾総督が任命されましたが、各総督は自ら巡査記録を行い、各地を巡視し、民心を慰んでいきました。こうして、統治者として最も効果的な手法をとり、政治体制は加速度的に整備されていきました。

ところで、皇太子の外出を「行啓」と称しますが、目的地が複数ある場合は「巡啓」と呼ばれます。各地を視察することにより、領土内の発展状況を把握し、実際の統治権を手に入れることを目的としていました。

1923年、裕仁皇太子は総督・田健治郎の要請に応じ、皇太子の身分として台湾を訪問することになりました。皇太子の「台湾行啓」は、皇太子が天皇の代理として植民地を巡視する最初の例でありましたが、台湾島内を訪問する皇室最高位という意味も持っていました。ちなみに、東宮行啓が行われた理由は以下のよう推測されています。「(1) 皇室儀礼を通じて天皇制を強化することにより、世界の民族自決の風潮及び国家主義の潮流に対応すること、(2) 皇室儀礼を広く知らしめることによって、次の段階の修正的な新しい統治体制とすること、(3) 在台日本人の皇室に対する忠誠を手本として示すことにより、「新附の民」である台湾本島人を「忠実なる帝国臣民」へと導くこと」です。

資料提供／陳信安先生、陳俊安局長、呉慶甸氏
国立中央図書館台湾分館、flickr Taiwan

1923年04月20日～21日 日本裕仁皇太子の台南行啓ルート

4月20日のスケジュール

08:30 台中御泊所 → 08:38 台中驛 →
12:33 ①台南驛（初代台南駅（現存せず）） →
12:40 ⑤台南御泊所（1900年創建当時は台南県知事官邸、1923年当時は台南州知事官邸）★市指定古蹟 →
13:20 ⑥台南州庁（現在の国立台湾文学館）★国指定古蹟 →
13:47 ⑥北白川宮御遺跡所（現孔子廟脇の公十一公園敷地跡（現存せず）） →
14:08 ⑧南門尋常小学校（現在の建興中学校中正棟、歴史的建造物） →
14:30 ⑦台南孔子廟（★国指定古蹟） →
14:50 ⑩台南師範学校（現在の台南大学紅樓）★市指定古蹟
⑪台南第一公学校（現在の台南大学附属小学校の地、改築）
③台南公園内に散策（西南の位置の花園町門から入られ、元・招魂碑、御渡橋、事務所、「立太子記念樹」の小さな丘、飛瀾、中之島、燕潭噴水池東側と巡られ、東側の旭門からお出になる） →
15:38 ④台南第一中学校（現在の台南二中の紅樓玄関及び校史室）★市指定古蹟 →
台南ご宿泊（台南州知事官邸）

4月21日のスケジュール

08:40 台南御泊所 →
09:05 ⑫安平製塩会社埋立地棧橋から乗船（現在の市指定古蹟・元・専売局台南支局安平分室（夕遊出張所★市指定古蹟）の西北の塩水溪傍（現存せず）） →
09:35 ⑬安平製塩会社塩田（現在の南寮塩田生態文化村）★市指定古蹟 →
安平埋立地 →
10:35 ① →
10:50 台湾總督府殖産局附屬塩水養殖試験所（現在の五期再計画区（現存せず）） →
11:35 ②歩兵第二連隊（現在の成功大学光復キャンパス）★国指定古蹟、ガジュマルを植樹（今は大きなガジュマル園となっています） →
12:18 台南驛 → 高雄へ

日本裕仁皇太子

台南行啓ルート

大正12年4月20日～4月21日

01 元・台南驛 | 現在の台南駅

☎ 886-6-2261314 📍 台南市東区北門路2段4号

背景のご紹介：

1900年（明治33年）建設。1911年（明治44年）の市区改正により、台南驛前にロータリーが設置され、交通の中枢となりました。

02 元・日本軍歩兵第二連隊（★市指定古蹟） （現在の成功大学光復キャンパス、国指定古蹟）

☎ 886-6-3901175 📍 台南市東区大学路1号

背景のご紹介：

国立成功大学のキャンパスにある「榕園」の中央に「キノコ形」のガジュマルの樹があります。これは、1923年、裕仁皇太子のお手植えによって植樹されたものです。正面の榕園3棟の建物は、日本軍歩兵第二連隊軍舎であり、日本陸軍が最も早く鉄筋コンクリートを採用した美観的な建築物の一つです。裕仁皇太子は台湾南部地区の軍備状況を把握するために軍営を視察されました。

03 台南公園（★市指定古蹟）

☎ 台南市北区公園路356号

背景のご紹介：

台湾の各大都市の中で、面積最大の公園です。1917年の市政開始記念日に開園しました。裕仁皇太子は台南公園を散策され、台南地区の憩いの場をご観納されました。

04 元・台南第一中学校 | 現在の台南二中紅樓玄関と校史室（★市指定古蹟）

☎ 886-6-2514526 📍 台南市北区北門路2段125号

背景のご紹介：

1914（大正3）年に創立され、前身は台湾總督府台南中学校で、台湾總督府が中部で最初に設置した中学校でした。その後、教育改正により、「台南州立台南第一中学校」と改名されました。講堂は直轄市指定古蹟となっており、紅樓玄関と2階の校史室に裕仁皇太子はお立ち寄りになり、校史室には「立太子記念文庫」が設置されています。

05 元・台南州知事官邸 | 1900年創設時は台南県知事官邸（★市指定古蹟）

☎ 886-6-2991111 📍 台南市東区南民街1号

背景のご紹介：

1900年（明治33年）に建設され、主に総督が台南を巡視する際の「総督官邸」、皇族巡視の「御泊所」となっていました。本建築には和洋二館があり、洋館は現在の古蹟の本体でレンガ建築となっており、2階北東の増築した部分は裕仁皇太子の居住空間となりました。

12 元・安平製塩会社埋立地（★市指定古蹟）

| 現在の直轄市指定古蹟・元専売局台南支局安平分室（夕遊出張所）の西北の塩水溪脇に位置（現存せず）

☎ 886-6-3911088 📍 台南市安平区古堡街196号

背景のご紹介：

日本政府は食塩の専売を実施し、台南支局の下に安平分室を設けました。早期は公共施設でしたが、その後、宿舎として用いられました。

13 元・安平製塩会社塩田（★市指定古蹟）

| 現在の南寮塩田生態文化村

☎ 886-6-2840073 📍 台南市安南区大眾街101巷12号

背景のご紹介：

「台湾製塩株式会社」によって安平に製塩工場が竣工したのは1923年（大正12年）のことです。裕仁皇太子が訪問時にご乗船になった塩の運河、上下船埠頭、御休憩所、塩を晒す大煮釜池、小煮釜池、結晶池などが今も残されています。裕仁皇太子は台湾の塩業の発展状況を把握するために視察されました。

安平地区 オススメスポット

① 運河博物館 元・台南運河安平税関

📍 台南市安平区安平路97-115号

市指定古蹟。1935年に安平港が開港され、1939年から船が安平から現在の「中国城」まで直航となったため、税関もここに移されました。

② 西門小学校郷土館 元・安平小学校校長官舎

☎ 886-6-2295948 📍 台南市安平区觀音街64号

1913年（大正2年）から1924年の間に建てられました。「樓仔厝」と通称されています。

③ 安平文化資産館 元・安平市仔街何旺厝

☎ 886-6-2206799、2290730 📍 台南市安平区延平街86号

市指定古蹟。1920年代（大正年間）に建てられました。「樓仔厝」と通称されています。

④ 蚵灰窯文化館

☎ 886-6-2286836 📍 台南市安平区安北路110-1号

安平地区には数百年前からすでに窯の文化が存在していましたが、現在では僅かに安平蚵灰窯文化館で保存されています。

⑤ 安平市鶏屎洋樓

📍 台南市安平区國勝路35巷2号

市指定古蹟。1937年建設。日本統治時代末期、(戦後のため)自立たないように、建物は果敢ににされました。

⑥ 安平古堡陳列室

☎ 886-6-2267348 📍 台南市安平区國勝路82号

1930年（昭和5年）、総督府が「徳記洋行」（かつてイリス商人が設立した台湾の貿易事務所）と共に「大日本塩業株式会社」へ提供され、その管理下に置かれました。

⑦ 安平樹屋 元・大日本塩業株式会社倉庫

☎ 886-6-3913901 📍 台南市安平区古堡街108号

19世紀に建てられ、日本統治時代「徳記洋行」（かつてイリス商人が設立した台湾の貿易事務所）と共に「大日本塩業株式会社」へ提供され、その管理下に置かれました。

⑧ 朱玖榮旧居 元・大日本塩業株式会社宿舍

☎ 886-6-3913901 📍 台南市安平区古堡街108号